

頭足類の顎板による種査定に関するマニュアル

Manual for the identification of cephalopod beaks in the Northwest Pacific

窟寺恒己
国立科学博物館・動物研究部

Tsunemi Kubodera: kubodera@kahaku.go.jp

頭足類は世界の海洋において海棲哺乳類、海鳥類、魚類など多くの高次捕食者の主要な餌生物であることが知られているが、体を鱗やキチン質の殻で覆われていないため、捕食者の胃内部で魚類や甲殻類などより速やかに消化の影響を受ける。.

消化はまず表皮、頭部と外套膜の間、鰓付着部と進み、外套膜と鰓と頭足部が離れる。ついで、内臓や吸盤などが消失し外套膜と腕肉質部だけとなる。この状態になると通常の分類形質では、種査定が困難になる。さらに消化が進み、頭足部では口球が腕から離れ、口球肉も消化され、最終的にはキチン質で消化の影響をほとんど受けない上下の顎板が残される。

食性研究者はこの残された顎板を手がかりに、どのような頭足類を餌としているか追求していくことになる。顎板による頭足類の分類、査定に関する情報は、M. R. Clarke(1986)編の "A Handbook for the Identification of Cephalopod Beaks" に集約されており、また北太平洋亜寒帯海域の外洋性イカ類に関しては、窟寺・古橋(1987)が「胃内容物中のイカ類及びハダカイワシ科魚類の種査定に関するマニュアル」として報告しているが、どちらも最近では入手が困難である。

本マニュアルは、その後も集めつづけているピーク・リファレンスコレクションと新たに撮影したデジタル画像を基に、日本近海から北太平洋に生息している頭足類のうち約 50 種につき、顎板による種査定の手引書として、新しい情報伝達手段であるインターネットを媒体にして国立科学博物館のサーバーより提供するものである。大きく「下顎による検索表」と「種基礎表」からなり、検索表で種あるいは近似の属まで追跡した後、種別の基礎表で詳細な形質を比較・検討出来るように構成したつもりである。また、胃内容解析や顎板の取り扱いに初心者の方に、サイドメニューとして注意・参考事項及び関連文献をまとめてある。

本マニュアルは北太平洋産頭足類をすべて網羅しているわけではなく、顎板の形態は成長によっても大きく変化する。捕食者によっては、胃内容物から検索表に合わない顎板が出現することも多々あると思われる。それらについては情報が集まり次第、更新していく予定である。

アドレス : <http://research.kahaku.go.jp/zoology/Beak/index.html>